

「これからの地域福祉のあり方を考える」

6月30日(火) 於：東部文化ホール

第1部は、ルーテル学院大学学事顧問で教授の市川一宏さんの講演、第三次長野市地域福祉計画策定についての説明をはさみ、第2部はシンポジウム。地域での取り組みについて川中島地区地域福祉ワーカーの島田寿子さん、包括コンフォートきたながいけ主任ケアマネージャーの川相香子さん、大豆島地区住民自治協議会福祉健康部会副部会長の峯村英雄さんにお話いただきました。



参加した方から…

今年から地域福祉ワーカーという仕事を始めて、仕事をすればするほど「福祉って、ボランティアってなんだろう？」とっていました。

受講して、まず真っ先に感じたのは「困っているのはうちの地区だけじゃないんだな」ということ。「地域の生活課題は多種多様」で、その解決方法は「それぞれの地域に合った方法でしか解決できない」と先生がおっしゃいました。

また「困っていること」の裏側に地域特有の「強みや解決方法」が見え隠れしていると知り、とても勇気がわきました。

「何から手を付けていいんだか…」とありました。が、「あれもやってみよう。これもやってみよう」という気持ちになり、シンポジウムもとても参考になりました。

鬼無里地区では昨年「福祉ネットワークの構築」に力を入れています。地域福祉を円滑に進めるには、行政・医療関係・民協・住民自治協議会がしっかりつながり、それを軸に地域に福祉のネットワークの輪を広げ、根付いていくことが大切です。そのためにも、その軸がしっかりしていないといけなと、再確認しました。

私はずっと「自分は福祉には向かない」と思って過ごしてきました。が、「何かしたい！っていうのは、すでにボランティアなんです」という言葉を聞いて、衝撃を受けました。「なるほど!!」と。

迷った時、落ち込んだ時にはこの言葉を思い出し、初心に戻りたいと思います。

(鬼無里地区地域福祉ワーカー古畑真規子)



アンケートから…

- ・福祉について、どうしたら、どうやったら等に悩んでいたが、できることでいいんだ、とわかった。
- ・ご近所と仲良くする。仕事では机にいないでなるべく大勢の人と会うこと。
- ・具体的にできることを探し実行する。楽しんでやる。『やってみよう』『なんとなく楽しそう』を大切にする。
- ・地域資源ととらえると、沢山あることがわかった。とても自信が持てた。
- ・非常に参考になった。市川先生の話をもっと聞きたかった。
- ・大豆島地区の取り組みが素晴らしいと思った。
- ・何も知らなかった、難しいですね。

